

開校祝賀の歌

（明治四十年 札幌農学校より
東北帝国大学農科大学となりし時）

一

神統二千五百年

東海の果に眠りたる

大和島根の民衆は

見よや目覚めて明治の世

天の使命を果すべく

進取の旗を振り立てぬ

三

此の国運に魁し

先づ北辺の島の上

荒蕪を拓き民を植ゑ

不明を教へ道を樹て

進取の民の範たりし

百万の民若かりき

五

今や羽翼を整へて

徳乾坤を被ふ可き

国の使命を提げて

千余の学徒磨き

坤輿の民の師たる可き

新職分は下りたり

七

功利若し世の風たれば

其所に我等の戦あり

遊情若し世の俗たれば

其所に我等の戦あり

邪曲若し世の弊たれば

其所に我等の戦あり

二

天に二つの日なければ

地上を西し東せる

文化の潮渦巻きて

日出づる国に相会し

炳焉として虹の如

乾坤茲に光あり

四

此の民衆を導きて

重き使命に負かじと

我が札幌に建てられし

祖校よく其の任に耐へ

北辰高く輝きし

其の名声や將た説かじ

六

思へ嘗ては北辰と

光を競ひ白雪と

意氣争ひし校風を

享けし我らの前程は

高く大きく清らなる

希望の色に溢れずや

八

楡の梢風鳴りて

平和の歌をなすが如

藻岩の雲の峯そひて

莊嚴の色動く如

我等の歌に歓喜と

自信の響こもれかし